

1年 国語科研究授業のまとめ（7月10日）

1 単元名及び単元の目標

「おおきなかぶ」（4／6本時）

- 場面の様子を想像しながら、お話のおもしろさを楽しんで読む。
- 読み取ったことを生かすように工夫して音読する。

2 本研究授業の提案について

登場人物の気持ちを豊かに読み取らせるために、以下の二つについて提案を行った。

- (1) 挿絵と文章をつなぎながら、行動や会話を手がかりに読み取らせるという手立てである。

1枚目の全員でかぶを引っ張っている様子の挿絵から、児童はそのときの様子や表情をとらえ、一生懸命にかぶを引っ張っていることを読み取ることができていた。2枚目のかぶが抜けたときの挿絵については、1枚目の挿絵との比較で貼付したが、特に説明したりその様子について取り上げたりしなかった。補助発問によって2枚目の挿絵に注目させ、ねずみの動きや登場人物の表情に着目させることにより、登場人物一人一人についてさらに思いを広げて豊かに気持ちを想像して読み取ることができたのではないかと考える。

- (2) 読み取ったり想像したりしたことを交流する展開を授業の中に位置付け、多様な見方ができることに気付かせるという手立てである。はじめに、ペア学習で互いの考えを発表し合い、その後、全体の前で発表する学習場面を設けた。ペア学習では、互いのノートを見せ合いながら自分の考えを発表することができた。その後の全体発表では意図的指名を行い、かぶが抜けた喜び、かぶの調理、努力したり協力したりして達成できたこと、手伝ってくれたことへの感謝という観点で類型化して発表させた。児童は、自分の考えを自信を持って発表することができ、友達の考えを聞いて自分の考えとの共通点や相違点、自分では気付かなかった点などに触れてさらに深く読み取ることができた。

以上のことから、場面の様子や行動・会話などを手がかりにして登場人物の気持ちを想像して読み取らせたり、考えを交流させたりする手立ては、物語文を深く理解させる上で有効であったと考える。

3 本研究授業の授業技術課題について

- (1) 多様な考えを引き出しねらいにせまるためにはどんな発問が有効であるかを考えた。前の場面までの様子や登場人物の気持ちを振り返った上で本時での様子や登場人物の気持ちをじっくりと考えて自分の考えをまとめることができるように、主発問を一つに絞った。児童は自分なりに登場人物の気持ちを読み取り、自分の言葉で文章にしてノートに表現することができていた。

終末の段階でまとめの音読をさせる際、「読み取ったことが表れるように」という観点は示したが、抽象的だった。今後は、登場人物の気持ちを本文中のどの言葉に込めるか、本文をどのように読んだらよいかについて考えさせることにより、自分の考えを再考して音読に反映させていきたい。

- (2) 主体的に学習に取り組ませるためにはどのように単元を構成したらよいかを考えた。本単元では、第一次で音読劇という最終的なゴールのイメージを持たせ、毎時間それを意識しながら音読や読み取りを行った。また、かぶを引っ張るときや手伝いを頼むときの会話など、本文にはないやりとりも取り入れた。それにより、児童は意欲的に学習に取り組み、場面ごとに登場人物の様子を豊かに読み取ることができた。そして、それを基に第三次での音読劇につなげることができた。

4 次回の研究授業へ向けて

以上の点をふまえて、次回の研究授業では以下の点を意識した授業展開を考えたい。

- ・ 交流場面での意図的指名のあり方とその後の再考のさせ方の工夫。
- ・ 主体的に学習に取り組ませるための、単元を貫く言語活動を意識した単元構成の工夫。

